

くじゅう黒岳地域の こけ植物・地衣類群落

黒岳は、山頂部の岩角地、尾根部の明るい林内、山腹のブナ林、谷部の湿潤な林に加え、溪流辺や炭酸を含む低温湧水の流路わきなど多様な自然環境をそなえています。当然、それぞれの環境によって成立したこけ植物・地衣類群落が見られます。しかし、今回調査できたのは、その内の一部です。標高差のある大きな山塊と、豊かな自然が織りなす多種で多様な群落は、全容に近づきたい壁となっています。



写真1. トゲナシカラクサゴケ
ーヒモウメノキゴケ群落



写真2. トゲナシカラクサゴケ

トゲナシカラクサゴケ ーヒモウメノキゴケ群落

本群落は比較的日当りのよい幹から枝にかけてよくみかけます。トゲナシカラクサゴケ (*Parmelia fertilis*) は、火山性噴気の影響地域でも良好な生育を保っています。ヒモウメノキゴケは各地のブナ林に普通にみかける種です。

地衣類サルオガセの仲間

地衣類の中で、各地に生育し大気汚染に特に弱いとされるのがサルオガセの仲間です。黒岳では、ブナの枝などにしばしばみられます。強風の後、登山道にも落ちています。



写真4. 谷部岩上のフトリュウビゴケ群落



写真3. アカサルオガセ

谷部岩上のこけ植物群落

谷部の岩上はこけ植物で全面がおおわれています。そこには、フトリュウビゴケ、フサゴケ、トヤマシノブゴケ、エダツヤゴケ、コツボゴケなどがそれぞれに多く占め、日当たりや湿気など環境に適した群落となっています。

山頂岩角地の北方系地衣類群落 (チズゴケーアナイワタケ群落)

この群落は、天狗岩の露岩上に最も良好に広がっています。地衣類チズゴケ、アナイワタケ、タカネゴケは北方系の種類です。なお、くじゅう山群の西端には北方系の代表的な地衣類マキバエイランタイが、分布上で南限にありながら良好な生育を保っています。地衣類は、幹や岩に付着し土壌の影響を受けないだけに、北方系の地衣類が良好に生育することは、くじゅう山群の山頂部が、気候的に高山帯のような環境をもつことが推測されます。



写真5. チズゴケーアナイワタケ群落

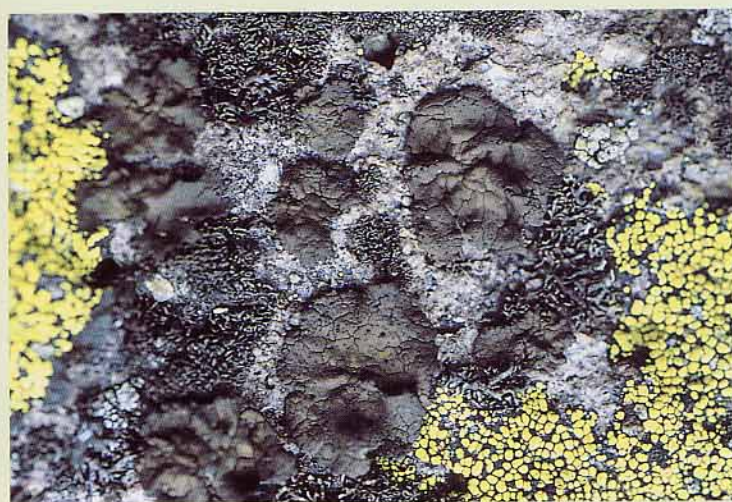


写真6. 地衣類の種名 黄色：チズゴケ，黒褐色葉状：アナイワタケ，黒色光沢で紐状：タカネゴケ



写真7. くじゅう山群西端に生育する樹枝状地衣マキバエイランタイ

尾根地上の地衣類群落

炭酸泉流路わきのこけ植物群落



写真8. 白水鉱泉の炭酸泉の流路わきに、蘚類オオハリガネゴケーヒロハノスキゴケ群落が見られます。

写真9. ハナゴケ
(目盛は1mm)



写真10. 枝尾根に近い斜面に樹枝状地衣ハナゴケの群落がありました。ハナゴケは、県下の各地で見られます。